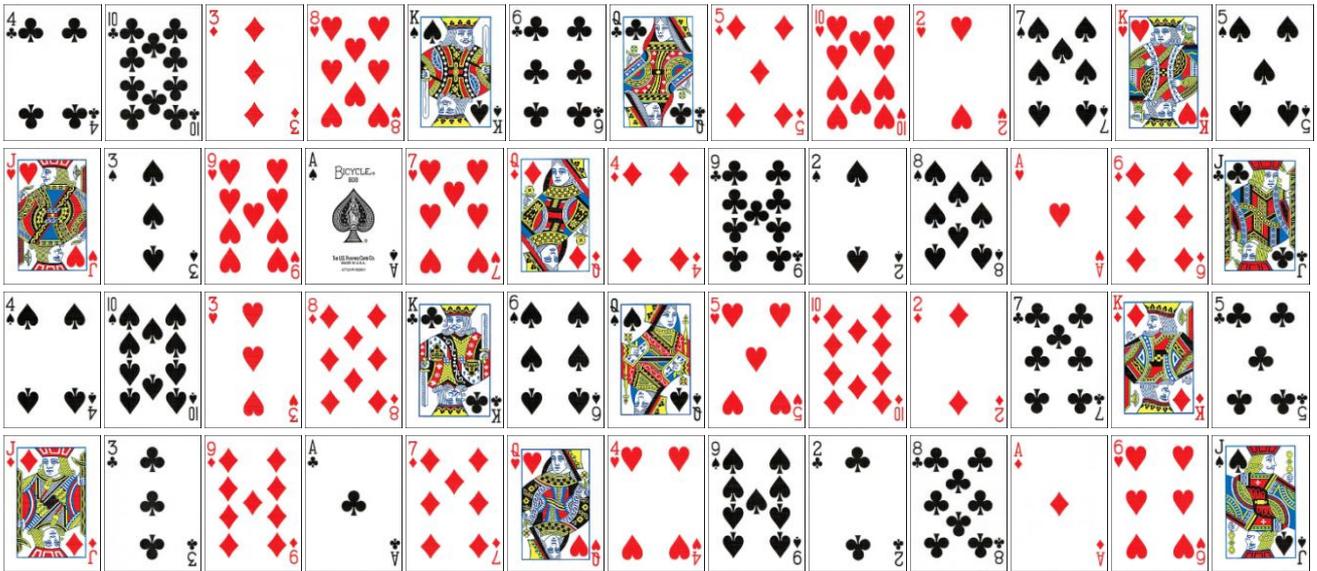


## ■ Yシステム ■

トップから



サイステピンスシステム同様、次のカードがわかるシステムですが、等差数列ではありません。

表向きに広げても、赤や黒、数字の混ざり方がよりランダムに見えます。もちろん何回カットしてもかまいません。

また、上下26枚ずつがメイトになっています。

### 【方法】

#### 数字の決め方

今のカードが赤なら5を足します。(赤子(あかご))

黒なら6(くろ→ろく)を足します。

(「赤子黒ろく」と覚える)

足して13を超えた場合は13を引きます。

#### マークの決め方

その結果が奇数なら違う色(「奇」妙だから「違う」と覚える)。

結果が偶数なら同じ色。元の数も偶数なら同じマーク。(「偶」然だから「同じ」と覚える)

(スペードとハートがペア。クラブとダイヤがペアと考える)

例1)今のカードがハートの7の場合

赤なので5を足す。 $7+5=12$ 。結果が偶数なので同じ色、元は7で奇数なので、同種の色。つまりダイヤとなる。したがってダイヤの12である。

例2)スペードの10

黒(くろ)なので6(ろく)を足す。

$10+6=16$ 。 $16-13=3$ 。

3は奇数なので違う色。つまりスペードとペアのハートになる。ハートの3である。

### 例3) クラブの6

黒なので6を足す。 $6+6=12$ 。結果が偶数で、元の数字(6)も偶数なので、同じマーク。したがってクラブの12となる。

(Yシステムの応用)

## ■透視術■

### 【準備】

デッキをYシステムの逆順にしておきます。

### 【演技】

表向きにテーブルスプレッドして何気なく仕掛けのないことを示します。

デッキをまとめて裏向きに持ちます。ここでカットの方法を示し、実際に一度カットします。

(半分ほどを持ち上げテーブルにおき、その上に残りを重ねる)

デッキを相手に渡し、後ろを向きます。

「では、一回カットしてください」

「できましたか。では、全体を手を持って、上から1枚ずつテーブルに配って行ってください。何枚でもかまいません。やめなくなったら『ストップ』と言ってください」

相手がストップと言ったら、

「では、今配り終わったカードか、手に持っているトランプの一番上のカードのどちらかを、表を見ないで、マットの下かポケットなどにしまってください」

相手がそうしたら、

「持っているトランプをカットします。まず半分ほど持ち上げて、テーブルに配ったカードの上においてください。さらに残りのトランプをその上に重ね、よく揃えてください」

ここで前を向き、フォールスカットします。

「これで、さきほどのカードを当てることは、不可能だと思いますがいかがですか」

「もし、あなたがカードを見ていたら、あなたの心を読むという方法もあるのですが、それも出来ません。そこで、今回は透視という方法を使ってみましょう」

デッキを表向きにテーブルにおき、

「こうやってカードを透視して、見えてこないカードが先ほどのカードということですよ」

カードを上からじっと見ます。仮に見えているカードがダイヤの6だとします。

ここで、システムを使って、次のカードを計算します。

(Yシステムの場合、ダイヤの6の次はクラブのJとなります。)

しばらくしてから「厚さがあると、下の方が見つらいので、一度広げていいですか」と言います。

カードをテーブルにスプレッドしますが、このとき、クラブのJを素早く見つけ(たいてい下半分にある)、

その右隣りのカードを覚えます。ハートの8だとします。このカードの次のカードが相手のカードになります。

(この場合は「赤子」なので $8+5=13$ 、奇数なので違う色。したがってスペードのK)

ハートの8を見たら、すぐにスプレッドを閉じ、

「少し見やすくなりました。透視を続けてみます」

次のカードを計算します。

「黒いキングが1枚しか見えません。見えているのはクラブです。つまり、この中に入らないカードはスペードのキングだと思います。」

相手にカードを出してもらいます。表向きにするとスペードのKです。